

実践的な英会話で 論理的思考法を鍛える

—— 広島学院中学校・高等学校のグローバル教育

広島学院中学校・高等学校では、フィリピンの姉妹校と交流しながらグローバル感覚を養っています。同校英語科の杉本岳久先生に、実用的な英語力を身につけるための授業内容についてお話を聞きました。



広島学院中学校・高等学校
英語科
杉本岳久先生

外国人と実際に話しながら
英語力を伸ばす

広島学院中学校・高等学校は、イエズス会姉妹校との国際交流を通じて、国際理解教育を実施しています。具体的な活動では毎年、希望者を対象として「フィリピン体験学習（15日間）」と「フィリピン姉妹校生徒の受け入れ」を実施しています。英語科・杉本先生は、同校の国際交流の取り組みについて語ります。

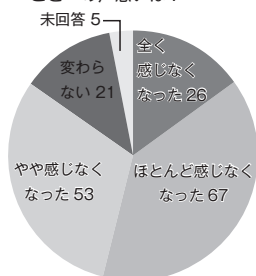
「本校は、グローバル教育という視点でカリキュラムを組んでいません。もともと海外のイエズス会の学校とつながりがあり、その一つが、フィリピンにあるアテネオ・デ・ナガ高校との交流です。アジアの同世代の生徒と交流することでグローバルな感覚が養われます。この体験の

結果として、生徒自らが必要を感じたら海外に出ていくという将来の選択につながります」

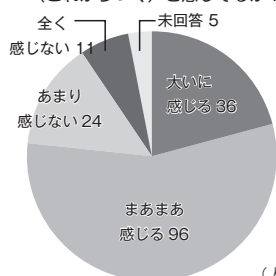
同校の中1〜2の英語の授業は1クラス40人を半分に分け、日本人教員が文法を中心に教える英語Aと、ネイティブ教員が担当する英語Bを交互に行います。英語Bはコミュニケーションや文法、リスニングなどを学び、内容は担当者に委ねられています。中3・高1では、オンライン英会話の授業があります。「授業中に発表させるとしたら、半分の20人でも一人2分くらいの時間しかとれません。また、ネイティブ教員は日本語がわかるので未熟な表現でも伝わり、それに生徒が甘えてしまう部分もあります。オンライン英会話の講師は日本の知識が少なく、日本文化については1から説明しなければなりません。外国人との会話ではそれが自然なので、リアルな英語コミュニケーションの実践としてオンライン英会話を活用しています。文脈の異なる人と話が伝わるという体験は、生徒の自信になると思いま

▼ロジカルスピーキングの授業後に生徒に行ったアンケート集計結果
参加者 172人

Q中2までと比べて、英語を話すことへの戸惑いは？



Qスピーキングの力がついている（これからつく）と感じてるか？



す。世間一般には「英語ができる」思考があります。生徒がオンライン英会話の経験を抛り「胸を張って、英語ができる」と言えるようになってほしいですね」

発話量を増やす中3・高1のオンライン英会話

杉本先生が担当される高1生

は、中3時にトピックについて自由に話す学研オンライン英会話の授業で、日常英会話レベルのスキルを鍛えました。進級した今年度はトピックに対する自分の意見を論理的に述べる『ロジカルスピーキングトレーニング』



▲授業前の予習として、想定する会話のフレーズをテキストに記入する。

◀ロジカルな考え方をマンツーマンで学ぶ。

グ』を受講しています。

「昨年度、日常会話レベルを身につけた生徒に次のステップとして、英語的な論展開に慣れ、最終的にロジカルな文章を書く作法を身につけてもらうのが狙いです。最後に結論を述べる日

本語的な文章では、英語が正確でも評価はされません。まずは最初に結論を提示するという英語のスタイルに慣れてほしいですね。ここで修得した技能は、ディベートでも生かされます」(杉本先生)

オンライン英会話の効果がさまざまな形で生かされることを期待する杉本先生ですが、授業の文法学習の補助教材としてはオンライン英会話を位置づけていません。

「記憶は、繰り返し返した回数と出会のインパクトの強さで定着します。今まさに授業で学んでいることを使うというドリル的な利用法では一時的には定着しても、時間が空いたら忘れてしまう可能性があります。それよりも、オンラインの講師と会話をしながら授業で習ったことを

思い出し、それを自分なりに使ってネイティブに通じた時のほうがインパクトが強く、しっかりと記憶に残ります」

スピーキングを通して英語の総合力を身につける

オンライン英会話により、英語を話すことへのハードルが下がったり、フィリピン体験学習への応募が増加したりするなど、生徒の英語を学ぶ姿勢に何らかの変化が現れているようです。オンライン英会話終了してからの高2、3年の英語の指導について杉本先生に聞きました。

『ロジカルスピーキング』で身につけた英語力をさびつかせないように、今後もフィリピンからの留学生とのディベートやスピーキングといった機会を定期的に設けていきます。英語外部試験導入は延期になりましたが、スピーキングを通して他の三技能の育成も目標にしてきたので、オンライン英会話の優位性には変わりはないでしょう。やり取りにはリスニングが必要で、前述のようにライティングまでつな

がります。さらには、英語のセンテンスやパラグラフを読んでいくなかで、ロジックの裏に隠れている前提などを深く考えるようになるというレベルまでいくとおもしろいと思います。高1生には『ロジカルスピーキング』を通して英語そのものの楽しさを知ってもらえたらと思います」



▼フィリピンからの留学生とディベートに取り組む生徒の様子。

【問い合わせ先】

(株)学研プラス 英語教育事業室 / 西日本文芸教習室 03(6431)1573 global-english@gakken.co.jp